

# 紡いだ「糸」強固な絆に

## 松村豊吉顕彰の綿栽培



松村豊吉  
(松村憲樹氏提供)

ニュース  
プラスアルファ

国内で初めて洋綿栽培に成功した、松江市ゆかりの松村豊吉(1868〜1959年)を顕彰する綿栽培計画「里山笑楽校プロジェクト」が1年目の活動を終えた。市内6公民館と雲南市大東町の地域住民が連携し、栽培を機に交流の輪が広がっている。綿から紡がれた交流の「糸」をより強固にしようと、関係者は思いを一つにする。(佐々木一全)

## 松江6公民館と 交流の輪拡大 雲南・大東の住民



たわわに実った洋綿を収穫する参加者

10月中旬、ふるさとの原風景が広がり「日本の棚田百選」に選定されている雲南市大東町山王寺地区。広さ10㍓ほどの農場では、大きなコットンポールを付けた洋綿が秋風に揺れていた。「予想以上に立派に育った。取り組んだかいがあった」。ポールの重みを確かめながら城西公民館(松江市堂形町)の森泰館長

(73)は感慨に浸った。出雲市出身の豊吉は、移り住んだ松江市城西地区で綿栽培を約30年にわたって研究。1927年、低温多雨の日本では難しいとされた洋綿の栽培に成功した。

今回の共同栽培は昨年11月、雲南市大東町山王寺地区で環境問題に取り組む多久和厚さん(64)が存在を知り、森館長に提案したのが始まりだった。

かつて豊吉の功績を伝える紙芝居やDVDを制作した森館長は「実体験を通じて、豊吉の苦勞に思いをはせることができる。絶好の機会だ」と賛同。松江市街地にある五つの公民館(城北、城東、雑賀、白濁、朝日)に協力を呼び掛け、多久和さんが管理する農場で5月に種をまいた。

栽培に取り組む一方、連帯感の醸成に取り組んだ。7月に大学教授を招いた講演会を開き、都市と農村の交流促進が地域活性化につながることを学習。8月には、雲南市内の綿農家を招

いた勉強会で育成方法への理解を深めた。各公民館と山王寺地区の交流も芽生えつつある。城北公民館(松江市北堀町)は公民館主催の夏祭りに山王寺地区の神楽社中を招き、白濁公民館(同市灘町)は年明けに共同の味噌づくりイベントを企画している。

城北公民館の音田博路館長(65)は「山王寺の伝統文化を体感できた。交流の基盤が整いつつある」と目を細める。

10月の収穫では、参加した40人が200株を摘み取った。プロジェクトリーダーとして栽培を指導した多久和さんは「1年目としては百点満点の出来栄え。皆さんの苦勞のたまものだ」と強調した。

6公民館は来年2月、共同で市民学習発表会を開き、1年目の成果を振り返るとともに収穫した綿の販売を予定している。「一発花火では終わらせない。今後も継続し、交流の輪を市内全体に広げたい」。森館長は固く誓う。